

三河商人道

PART
132

株式会社 三光家具製作所
代表取締役
齋藤 昌孝 君



青年部は、気軽に相談できる場



齋藤さんは現在、オーダーメイド家具の製作及び木製品の特殊加工などを主な業務としている株式会社三光家具製作所の代表取締役をされています。住宅メーカーや一般消費者からの家具製作のオーダーを受けると、設計から製作、施工まですべて自社で行われています。

元々は、市内の小中学校の家具の製作が多かったそうですが、今では一般住宅の家具はもちろん、自然科学研究機構・分子科学研究所や生理学研究所の特殊な環境下で使われるオーダーメイド家具なども手がけられています。研究所の家具は、金属が使えない環境下に据え付けるものなどがあり、釘やネジを使わず、木と樹脂のみで作らなければならない苦労話などもうかがえました。仕事に対する理念をお聞きすると「偉そうな理念なんてないんだけど、表と裏の顔の違う人は、商売でも人生でもどこか歪が出てきちゃうよね。そうはならないようにしたい。」と話されました。

仕事以外での齋藤さんと言えば、皆さんご存知「空の人」。お聞きすると、昭和60年くらいから岡崎飛行クラブでグライダーパイロットとして飛び始め、「もう最近は面倒くさくなっちゃって」とは言いながらも、今でも年に数回は飛ばれているとのこと。岡崎では半径9Kmの空域ですが、海外では三角コース200Km、滞空5時間、富士山より高い3,800mまで上昇したことがあるそうです。

青年部には、チャーターメンバーとして入会された齋藤さんですが、そもそもどうしてメンバーになろうと思ったのか、きっかけを尋ねると、社会人になる前の7年間、岡崎を離れていたこともあって、商売をやるにしても岡崎市内の知り合いを作りたいと思ったからだそうです。青年部に入った当初は、青年部自体が設立したてということもあり、自分よりずいぶん年上の人たちばかりで、ちょっと感覚の違いを感じられたそうですが、平成6年度には、三浦会長の元で広報委員として機関紙の制作を担当され、平成7年度には、調査委員会委員長を、平成19年度には、白濱会長の元で副会長を務められました。その時、一緒に副会長をやった柴田匡司さんは幼稚園の同級生だそうです。

青年部での一番の思い出は、やはりお祭りとおっしゃる齋藤さん。「今とはちょっと違うけど」と前置きされて「古くは神輿の製作や改造をうちの会社でやったり、祭り当日は、爆竹をさんざん鳴らして、周りの皆さんにはご迷惑おかけしたこともありましたね。」と笑顔で当時は懐かしんでおられました。青年部の後輩へ何かメッセージをとの問いに「青年部は、気軽に人生相談も仕事の相談もできる仲間の集まり。一人で悩まず楽しくやって欲しいですね」とのお言葉をいただきました。

青年部に入ってから生まれた齋藤さんの娘さんも今では立派に東京で役者修行中。取材の終わり際に「青年部に入った時は、50歳近いメンバーを見てジェネレーションギャップを感じていましたが、自分がもうそんな歳になっちゃいましたね。」と卒業を前に少しさみそうな齋藤さんと記念撮影をして今回の取材を終りました。



広い敷地に立つ工場とオフィス



丁寧に仕事の説明をしてくれました



取材スタッフと一緒に記念撮影



取材担当/
情報発信委員会
加藤吉和・近藤知之
香村経文